

目指す学校像	わからなかったことが わかるようになる学校	わかったことが さらにわかるようになる学校
--------	-----------------------	-----------------------

重点目標	1 確かな学力の育成のための、個別最適な学びの実現と、学ぶ意義を実感できる教育課程の創出 2 安心で安全な教育環境の整備と、豊かな心とたくましい体の育成 3 学校運営協議会を発足し、学校、家庭、地域における情報共有と行動連携 4 学校生活の真の楽しさを味わわせることができる授業力と指導力の育成
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標			年度評価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査の結果から、学力、生活面の意識とも良好な結果である。 ○学校評価児童アンケートにおいて、「授業は分かりやすいですか」の質問に対する肯定的な回答が96%である。 ○学校外で、学校より発展した学習に取り組んでいるという回答が40%である。 <課題> ○全国学力・学習状況調査の結果から、6割以上の児童は、80%以上の正答率であるが、無回答率にやや課題が見られ、理解に時間がかかる児童もいる。 ○「国語の勉強は好きですか」「学校での勉強は役に立ちますか」などの意識から、学習することの意義を実感させたい。	・確かな学力の育成のための、個別最適な学びの実現	①授業の中に自分で考える時間を確保し、教員による個別の支援、自力解決、協働解決の時間とする。 ②スタディサプリやデジタル教科書等のICTを研究し、授業の中に積極的に位置づける。 ③少人数指導を実施し、学び方を自己決定させ、より主体的で個別最適化された学習を提供する。	①授業の中に、自力解決の時間を10分間程度確保することができたか。 ②スタディサプリやデジタル教科書等、新規に導入された教材を授業や家庭学習で活用できたか ③少人数指導を実施し、児童に学び方を自己決定させることができたか。				
		・学ぶ意義を実感できる教育課程の創出	①国・市の学習状況調査、よい授業の4つの因子の分析から本校独自の手立てを講じる。 ②単元の最初に児童とともに学習計画を確認し、目標を明確にすることで、主体的な学習を実現する。 ③探究的な学びの場として、「STEAMS TIME」の学習を開始する。	①学習状況調査の結果を分析する時間を確保し、分析結果から改善に向けた実践ができたか。 ②単元の学習計画を児童に示し、計画に従って学習を進めることができたか。 ③第3学年以上の各学級で STEAMS TIME を年間9時間実施できたか。				
2	<現状> ○全国学力・学習状況調査の結果から「学校に行くのが楽しい」という意識が良好である。 ○いじめの覚知から認知、対応方針の検討、対応の見守り見届けを組織的に行うようになった。 ○全職員で毎月安全点検を実施し、必要な対応を実施月内で行うことができた。 ○首から上のけがについて報告体制を整えた。 <課題> ○昨年度のいじめ認知件数は14件であった、積極的な認知の姿勢を継続する必要がある。 ○全国学力・学習状況調査の結果から、いじめは良くないことである意識にやや課題がある。 ○あいさつの意識の高まりについて、児童、保護者、地域、教職員の評価に乖離が見られ、連携した活動を展開する必要がある。	・安全で安心な教育環境の整備	①毎月の安全点検を確実に実施し、不具合箇所を早期発見、早期対応する。 ②ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境整備をする。 ③90周年の節目を生かし、充実した環境整備をする。 ④学びを継続できるように、週1日はタブレットの持ち帰りを実施する。	①安全点検における不具合箇所が次月に持ち越される事はなかったか。 ②ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教室の環境整備がなされたか。 ③90周年の節目を生かし、普段できない環境整備ができたか。 ④週1日ペースでタブレットを持ち帰り、家庭での学習に活用できたか。				
		・豊かな心とたくましい体の育成	①特別の教科道徳の研究指定校であった実績を生かし、「相手の気もちや立場に立って考える」習慣や心情を育てる。 ②本校独自の取組である「心の日」の活動を見直し、互いに認め合い、高め合える雰囲気醸成する。 ③定例の生徒指導・教育相談部会での検討をさらに深め、検討した内容について共通行動できるようにする。	①学校評価児童アンケートに「相手の気もちに立って考えることができたか」という項目を新設し、80%以上が達成できたか。 ②学校評価児童アンケートに「互いのよさを見つかられたか」の項目を新設し80%以上が達成できたか。 ③定例の部会後、対応について全職員が情報共有し、行動連携できたか。				
3	<現状> ○学校運営協議会準備委員会において熟議の結果、「コミュニケーション力」と「自分で考え行動できる力」を育てていくということになった。 <課題> ○目指す児童像について、情報発信を行い「明日が楽しみ仲本小」の深化、「あいさつ運動」の進化に取り組む。	・目指す児童像を地域全体で共有	①懇談会や授業参観など保護者や地域と連携するための機会を増やす。 ②学校・家庭・地域での合同あいさつ運動を実施する。 ③開催初年度となる学校運営協議会で経営方針、課題を共有する。	①学期に1回以上、学校と保護者が情報を共有する機会ができたか。 ②合同あいさつ運動を実施できたか。 ③経営方針、課題について熟議をすることができたか。				
		・保護者のニーズに寄り添った学校運営	①保護者からの訴えの受け止め、方針の検討、取組の見守り、結果の見届けを組織的に行う。 ②学校評価アンケートを見直し、取組の達成度を確認し、ニーズを把握する。	①対応について保護者からのご理解を頂くことができたか。 ②学校評価保護者アンケートを見直すことができたか。				
4	<現状> ○学校課題研修、エバンジェリストによる推進により、タブレット端末の活用等、ICT環境を基盤とした授業づくりが進んだ。 <課題> ○ICTの活用など、常に学び続け、「わかる授業」「楽しい授業」を実践できる力を付けたい。 ○児童の多様な個性に対応する指導力をつけたい。 ○教育者としての強い使命感と熱い情熱をもち、児童や保護者の願いに寄り添うことができる教職員を目指したい。	・真の楽しさを味わわせることができる教職員の育成	①学校課題研修を充実させ、授業研究を柱とした研究を進める。 ②授業について自分なりのこだわりを持ち、自分のよさを生かした授業を実践する。 ③学期に1回以上、校長による教室訪問を実施し、授業を参観するとともに授業後の面談で、授業や児童の様子について協議する。 ④特別支援学級、通級指導教室といった特別支援教育の機能が集中している特徴を生かし、児童をより深く理解できる力を育成する。	①2学期に指導者を招聘した授業研究が実施できたか。 ②教員が自分の授業のよさについて気づくことができたか。 ③教室訪問で、視点に沿った授業を実施することができたか。 ④特別支援教育に係る研修会を夏季休業中に実施することができたか。				